



おかげさま、おたがいさまの 気持ちで取り組もう

京都市長

門川大作



永島英器

明治安田生命保険相互会社
取締役代表執行役社長

「京滋SDGsプロジェクト」に参画する明治安田生命と京都市が、京都市役所にて
対談を行い、持続可能な社会の実現に向け共に取り組むことの大切さを語り合いました。



1963年2月18日東京都生まれ。東京大学法学部卒。86年明治生命(現・明治安田生命)入社。2010年静岡支社長、17年常務執行役(近畿地区担当役員)、21年より現職。22年、営業職員が健康増進や地域とのつながりを支える「MYリンクコーディネーター」制度を創設。

1950年11月23日京都市生まれ。立命館大法学部卒。69年京都市教育委員会に入職。2001年教育長、全国のモデルとなる教育改革が評価され、国の教育再生会議の委員に。08年より現職(4期目)。21年、京都市は「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定されている。

永島◎気候変動、コロナ禍、ロシアのウクライナ侵攻が起き、世界で格差と分断が拡大し、このままでは人類も地球も持続不可能になってしまうのではと危機感を抱いています。しかしそんな時代だからこそ、人間らしい善なる心で持続可能な社会をつくっていくかなければと感じています。生命保険は安心な生活を持続可能にしようという相互扶助の営みです。われわれは相互会社としてお客さま、地域社会、未来世代、働く仲間との絆を大切にしています。

門川◎この間の世界での自己中心的な、命を軽んずる動きの対極にあるのが「誰一人取り残さない」持続可能な社会を目指すSDGsの理念です。経済と環境が両立し、あらゆる命を大切に、おかげさま、おたがいさまの精神で多様性を尊重し包摂性のある社会へ、という流れが世界に広がるかどうかには人類の未来がかかっていると感じます。

あらゆる人に健康を 地元の「元氣」をサポート

永島◎「ひとに健康を、まさに元氣を。」と掲げる当社は京都市と健康増進に関わる連携協定を締結し、その一環として「データを活用した健康づくりモデル事業」の実施に協賛しています。

門川◎健康データの測定を行う拠点を地域に設け、日々の健康づくりの成果がスマートフォンアプリなどでわかる仕組みをつくる試みに京都市も力を入れていきます。一人一人の健康増進に役立つのはもちろん、データの集積が進むと医学の進歩にもつながります。

永島◎当社では、今年度の4月から営業職員の名称を「MYリンクコーディネーター」に変更し、「ひと」と「地域社会」の資産・資源をつなぐ存在と位置づけ、お客さまの健康増進や地域のつながりをサポートする取り組みを行っています。その一環として、Jリーグと一緒にウォーキングイベントも行っており、昨年は嵐山で京都サンガF.C.と協力して開催しました。今年からは市内の文化史跡をめぐるイベントも実施しました。

門川◎スポーツなどを通じての

地域密着、ありがたいです。近代に入った言葉「society」を日本人は社会と訳し、「社(やしろ)に会う」と表記しました。鎮守の森などに人が集って自然に感謝し、先祖を敬い、子孫に思いをいたして五穀豊穡を願い、絆を大切に より良く生きていこうと誓い行動する、これが社会です。鎮守の森は、特定の宗教を超えて人が集う空間ですね。また現在の京都では、子どもを真ん中に「学区」「学校」が地域社会の核にもなっています。

伝統を継ぐ人づくりが 持続可能なまちをつくる

門川◎今年、3年ぶりに祇園祭が本来の姿で行われました。貞観地震といわれる大地震が869(貞観11)年に発生するなど多発する災害と疫病に、帝が当時の日本の国の数である66本の矛を神泉苑に立て、そこに祇園社から神輿が送られた御霊会が祇園祭の起源。町衆により守り継がれ、ユネスコの無形文化遺産になっています。

永島◎地域の伝統を守っていくことは大変重要なことですね。当社も「地元の元氣プロジェクト」の一環として、全国各地の地域の祭りにおいて、持続可能な社会に向けて「地域社会との絆」を深め、地域社会の振興に貢献したいと思っています。今年も祇園祭にボランティアとして参加させていただきました。

門川◎祭りへの新しい町衆の参加、素晴らしいですね。何のために人間は生きるのか、地域社会は存在するのかが改めて問いつつ、自分ごととしてSDGsへの取り組みを実践しようという機運が高まっているのも心強いです。

永島◎国内総生産(GDP)が増えれば幸せになると信じられ、時代、企業はいかに稼ぐかが問われました。今や企業自体の存在意義が問われており、当社では、企業理念である「明治安田フィロソフィー」を根幹に据えた経営、いわゆる「パーパス経営」を実施しています。今後も、多面的な価値を、志を同じくする仲間と共につくること、それが重要であると考えています。そのための土壌が京都にはたくさんありますね。

門川◎京都市立芸術大学の前身は、1880(明治13)年に創立された京都府画学校です。明治維新で人口が激減したとき、先人は「人を育てれば、未来は明るい」とまず小学校、次に画学校をつくりました。西陣織、京友禅、京焼・清水焼などの振興のためです。京都には、世界で活躍されている先端企業が数多くありますが、ほとんどが伝統産業からの進化、イノベーションによるものです。あらゆるものづくりが集積する多様性、重層性も京都の特質です。明治安田生命からは京都芸大生の奨学金も支援いただき、感謝しています。

永島◎グループの明治安田グループ文化財団による

なっています。今後も、当社が持続的に成長しお客さまの期待に応えていくためには、多様な人材による新たな価値創造が必要不可欠であり、さらに取り組みを進めていきます。

門川◎イノベーションが生まれるところには必ず多様性があります。人口10万人あたりの芸術家の数「ボヘミアン指数」も、社会の寛容性や革新的なことが生まれる指標として注目されています。コロナ禍で一時、文化芸術は不要不急の象徴のように扱われましたが、京都では全国に先駆けて芸術家への支援を行ってきました。2023年には文化庁が京都に全面的に移転、京都芸大は京都駅東



人材育成支援の一つです。人づくりの豊かな歴史を経て、京都は魅力ある文化の土壌が育まれてきたのです。

文化芸術と利他の心で 多様性の花が咲く社会へ

永島◎当社は、多様な人材が意欲を高め、個々の能力を最大限に発揮できるように後押しをするべく「ダイバーシティ&インクルージョン」を推進しています。多様性を受容し、働く仲間が互いに成長できる風土醸成に取り組んだ結果、女性管理職比率は3年連続で目標の30%を上回り、また障がい者雇用者の入社から1年後の定着率は95.6%と、高い数値と

産業も地域もより元氣になる都市を目指していきます。

永島◎市長のお話を伺い、謙虚な気持ちや利他の心をもって生きることが重要だと感じました。人は理屈よりも共感で動くものと信じています。さまざまな場面で自治体の皆さまと連携し、お客さまや社会に貢献する活動に挑み続けます。

門川◎共感と、共に汗を流す「共汗」を大切に、おかげさま、おたがいさまの精神で、今後も共に取り組んでいきたいと思います。